

浦臼町特定不妊治療費助成事業受診等証明書

下記の者については、特定不妊治療以外の治療法によっては、妊娠の見込みがないか又はきわめて少ないと思われるため、特定不妊治療を実施し、これに係る医療費を以下のとおり徴収したことを証明します。

年 月 日

医療機関の名称

及び所在地

主治医氏名

印

医療機関記入欄 (主治医がご記入下さい)

(ふりがな) 受診者氏名	()	()
受診者 生年月日	夫 年 月 日 (歳)	妻 年 月 日 (歳)
今回の治療法	A B C D E F 該当する記号 (注意事項 1 参照) に をつけて下さい	A または B の場合 1、体外受精 2、顕微鏡受精 (該当する番号に をつけて下さい)
	男性不妊治療を行った場合は、行った手術療法を記載し て下さい。 ()	精子回収の有無 1、有 2、無
今回の治療期間(注1)	年 月 日 ~ 年 月 日	
領収金額	〔 今回の治療にかかった金額合計 保険外診療に限る 〕 特定不妊治療費 (男性不妊治療を除く) 領収金額 円 男性不妊治療費 (注 2) 領収金額 円	

(注1) 治療期間については、採卵準備又は凍結胚移植を行うための投薬開始等を行った日から治療終了日までを記載して下さい。ただし、主治医の治療方針に基づき、採卵準備前に男性不妊治療を行った場合は、男性不妊治療を行った日から特定不妊治療終了日までを記載して下さい。

(注2) 主治医の治療方針に基づき、主治医の属する医療機関以外の他の医療機関 (指定を受けていない医療機関である場合を含む) で男性不妊治療を行った場合は、主治医が患者から男性不妊治療をして支払った領収書の提出を受け、主治医が領収金額を記載して下さい。

(注意事項 1) 補助対象となる治療を次のいずれかに相当するものです

A 新鮮胚移植を実施

B 採卵から凍結胚移植に至る一連の治療を実施 (採卵・受精後、胚を凍結し、母体の状態を整えるために、1 ~ 3 周期程度間隔をあげた後に胚移植を行うとの治療方針に基づく一連の治療を行った場合)

C 以前に凍結した胚による胚移植を実施

D 体調不良等により移植のめどがたたず治療終了

E 受精できず、または、胚の分割停止、変性、多精子受精などの異常受精等による中止

F 採卵したが卵が得られない、又は、状態のよい卵が得られないために中止

採卵準備前に男性不妊治療を行ったが、精子を得られない、又は状態のよい精子が得られないために治療を中止した場合も助成の対象となります。

(注意事項 2) 採卵に至らないケース (女性へ侵襲的治療のないもの) は助成の対象となりません。